



Title	WHOニュース 7月/8月/9月
Author(s)	
Citation	目で見るWHO. 2026, 95, p. 24-29
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/104525
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



WHO、たばこ・アルコール・砂糖入り飲料の 50 % 値上げを要請

WHO は、2035 年までに健康税を通じてタバコ、アルコール、砂糖入り飲料の実際の価格を 50 % 以上引き上げるよう各国に求める新たな大規模イニシアチブ「3 by 35」を開始。

スリナム、マラリア撲滅国に認定

スリナムの成功は、アマゾン川流域や熱帯大陸諸国という困難な状況においても、マラリア撲滅が可能であることを実証した。

社会的つながりは健康の改善と早期死亡リスクの減少につながる

WHO の「社会的つながり委員会」は、世界人口の 6 人に 1 人が孤独に悩まされており、健康とウェルビーイングに重大な影響を及ぼしていると発表。

大気汚染：世界的な非感染性疾病 (NCD) の危機を引き起こす重要な要因への取り組み

大気汚染は、喫煙に次いで非感染性疾病 (NCD) の 2 番目に大きな危険因子だが、対策は見過ごされがちで、90 % 近

くは、大気質が最も悪い低・中所得国、特に WHO の東南アジア地域および西太平洋地域で発生。

ガザの危機的燃料不足に関する OCHA、UNDP、UNFPA、UNOPS、UNRWA、WFP、WHO の共同声明

燃料はガザの生存基盤で、病院、水道システム、衛生施設、救急車、人道支援活動のあらゆる側面を支えており、燃料が途絶えると、210 万人もの人々の命綱が途絶える事を声明。

ブルンジ、トラコーマを撲滅

ブルンジは WHO アフリカ地域でこの目標を達成した 8 番目の国となる。アフリカ地域でトラコーマの抗生物質治療を必要とする人の数は、まだ 1 億人程度存在。同国の保健当局への支援を継続。

セネガルもトラコーマを撲滅

セネガルが公衆衛生上の問題であるトラコーマを撲滅したと認定、WHO のアフリカ地域でこの偉業を達成した 9 番目の国となった。病気の末期失明段階の治療のための手術の提供、アジスロマイシンの抗生物質大量投与の実施、顔の清潔さを促進する啓発キャンペーンの実施、および水供給と衛生施設のアクセス改善による。

「伝統医学における AI の活用」新報告書 (WHO、ITU、WIPO)

伝統的、補完的、統合的医療 (TCIM) は何十億人もの人々が利用。予防、健康増進、リハビリテーションを重視するホリスティックな健康アプローチへの関心の高まりから、需要が高まっている。WHO などは、新しい技術概要「伝統医療における人工知能の適用マッピング」を発表。AI を活用して伝統文化の多様性を尊重しつつ、個別化医療、創薬、生物多様性の保全などの分野に新たなフロンティアを開拓している多くの国の事例を紹介。

WHO 加盟国が初会合でパンデミック協定の主要要素を推進するための次のステップを合意

世界保健総会は、病原体へのアクセスと利益配分 (PABS) に関する WHO パンデミック協定の付属書の草案作成と交渉を優先課題として、国際作業部会を設立。

マラリア再流行防止グローバルガイダンス

すべての国は「マラリア根絶」が達成されるまで、再流行の防止を継続する必要がある。ガイダンスは、再流行の防止に関する重要な概念と原則の概要を説明し、戦略、介入、計画、管理に関する情

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものなので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



報を提供。

「デング熱、チクングニア熱、ジカ熱、黄熱病」の臨床管理に関する WHO ガイドライン

主にヒトスジシマカによって伝染するアルボウイルス感染症は、気候変動、都市化、人々の移動の増加に伴い、グローバルヘルスに深刻な脅威。新ガイドラインはこれらアルボウイルスについて、臨床管理に関する推奨事項を示し、医療従事者がエビデンスに基づいて患者を治療するための推奨事項にアクセスできる。

WHO：HIV 予防にレナカパビル注射剤を推奨

WHO は、HIV 予防のための曝露前予防内服 (PrEP) の追加選択肢として、注射剤レナカパビル (LEN) を年 2 回投与することを推奨する新しいガイドラインを発表。

世界の小児ワクチン接種率は横ばいだが、1,400 万人以上の乳児が依然としてワクチン接種を受けていない – WHO、ユニセフ

紛争や人道危機はワクチン接種の進展を急速に損なう可能性があることが示され、世界の乳児の 4 分の 1 は、脆弱性、

紛争、または人道危機に直面する 26 カ国に居住している。懸念すべきは、これらの国の半数で、未接種児童の数が急増している点で、人道対応に予防接種を組み込む必要性が浮き彫りとなった。

東ティモール、マラリア撲滅国に

WHO は、東ティモールがマラリアフリーになったと認定、2002 年の独立直後にマラリアの撲滅を最優先課題とし、全国的な協調対応に着手した同国にとっても、驚くべき成果。このマラリア対策の成功は、政府のリーダーシップと、複数の民間や政府部門間の強力な連携の重要性を明らかにした。

WHO、性感染症 (STI) に関する新たな指針と政策実施に関するデータ

STI の予防とケアに関する統合ガイドラインには、政策実施に関する情報のほか、無症状の STI の管理、および STI の予防とケアのための医療サービスの提供に関する推奨事項が含まれる。

汚染医薬品に関する画期的な報告書 (WHO、UNODC)

子供たちを含む無数の患者の生命を奪い健康を損なわせた、危険な高濃度の有

毒化学物質を含む「汚染医薬品」の、持続的かつ予防可能な脅威に関する重要な調査結果を明らかにする画期的な報告書を発表。工業用有毒化学物質、特にジエチレングリコール (DEG) およびエチレングリコール (EG) による医薬品の汚染という、悲劇的で継続的な公衆衛生上の危機を浮き彫りに。

WHO：194 カ国の健康と環境に関するスコアカード

WHO は、2024 年版健康と環境に関する国別スコアカードを発表。これらには、大気汚染、安全でない水、トイレ・衛生設備 (WASH)、気候変動、生物多様性の損失、化学物質への曝露、放射線、職業上のリスク、およびヘルスケア施設内および周辺における環境リスクが含まれる。

国レベルでのウエルビーイングに関するグローバル・フレームワークと実施

第 76 回 世界保健総会で採択された「国レベルでのグローバル・ウエルビーイング・フレームワークの実施：政策パスウェイ」は、ウエルビーイング社会のビジョンを具体的な行動に移す方法に関する実践的なガイダンスを提供。

7月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・D型肝炎 ・C型肝炎 ・B型肝炎 ・トラコーマ ・HIVとエイズ ・予防接種率 ・家族計画・避妊方法

8月

August

D型肝炎に「発がん性」

国際がん研究機関 (IARC) は、D型肝炎を「ヒトに対して発がん性がある」と分類。肝炎Dは、肝炎Bに感染した個人にのみ影響を及ぼし、肝炎B単独の場合と比べて肝がんのリスクが2～6倍高い。これらの肝炎に関するサービスを国の医療制度に組み込み、その拡大と統合を早急に進めることが不可欠。

世界的な飢餓は減少、しかしアフリカと西アジアでは増加

国連の5つの専門機関が発表した「世界食料安全保障と栄養の状況 (SOFI 2025)」報告書によると、世界的には飢餓は減少したが、アフリカの大部分と西アジアのほとんどの地域では飢餓が引き続き増加したと推定された。

ポリオ：公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) をさらに3ヶ月継続

ポリオウイルスの国際的な蔓延のリスクは引き続き国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態とし、勧告の3ヶ月間延長を勧告。

気候と健康に関する第5回グローバル会議の成果

COP30を前に、グローバルな気候・健康政策を前進させるための「第5回

気候・健康に関するグローバル・カンファレンス」がブラジリアで開催。「ベレン健康行動計画」の策定と、「気候変動と健康に関する変革的行動のためのアライアンス (ATACH)」のための直接会合。

結核診断に関する最新運用ハンドブック

WHOは、「結核に関する統合ガイドライン」に付随して、「WHO 結核運用ハンドブック：モジュール3：診断」の最新版を発表。新しい検査と検査戦略の導入と拡大に必要な手順とプロセスの概要を示している。

ケニア、ヒトアフリカトリパノソーマ症 (アフリカ睡眠病：HAT) を撲滅

ケニアを含む10か国が、公衆衛生上の問題であるHATの撲滅に成功。ケニアのHAT排除プログラムはWHOとパートナーの支援を受け、感染の再発や再導入の可能性を検知するため、バリデーション後のサーベイランス計画を実施する予定。

厚生労働省とPMDA等がWHOリスト登録当局に指定

WHOは、日本の厚生労働省 / 医薬品医療機器総合機構、カナダ保健省および英国の医薬品医療機器総合機構

(MHRA) を厳格な規制当局 (Stringent Regulatory Authority, SRA) としてWHOリスト登録当局 (WHO-Listed Authorities: WLA) に指定。

世界母乳育児週間：保健システムへの投資と母乳育児の支援を各国に要請 (WHO、ユニセフ)

母乳育児は、赤ちゃんの健康、発育、そして人生の初期段階での生存を保証する最も効果的な方法のひとつで、母乳育児は赤ちゃんにとって最初のワクチンであり、下痢や肺炎などの病気から赤ちゃんを守る。世界の母親の大半が、母乳育児の方法や補完栄養の導入時期について適切な指導を受けられていないことは問題で、いかなる母子も置き去りにすることのない、強靱な保健システムの構築が必要。

世界患者安全の日 2025

2025年のテーマは、“Safe care for every newborn and every child” (仮訳：すべての新生児とすべての子どもに安全なケアを)。WHOは、小児医療と新生児医療における回避可能な危害をなくすための緊急行動を呼びかけ。

マラリア媒介生物制御のための空間忌避剤2製品を事前認証

世界保健機関は、マラリア媒介蚊の駆

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものなので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



除に新たな介入方法を導入するため、空間忌避剤の使用を支持する新たな勧告を発表し、SC ジョンソン社製の空間忌避製品「Mosquito Shield」と「Guardian」の2製品について、事前認証。

世界貧血推計 2025

貧血は健康、ウェルビーイング、生産性を低下させ、とりわけ妊娠中の貧血は、産科合併症、妊産婦死亡率、周産期死亡率、流産や低出生体重児などの出生アウトカムを高める。WHO 推計では、国、地域、世界レベルでの女性の貧血の最新状況と、持続可能な開発目標に連動した2030年までの世界貧血目標達成に向けた進捗状況を紹介。

WHO: メンタルヘルスおよび心理社会的支援のための最低限のサービスパッケージ (MSP) を開発

紛争、気候変動、政情不安、自然災害などにより、世界で3億人以上の人々が人道支援を必要としており、メンタルヘルス支援に対する需要のニーズに対応するため、WHOはメンタルヘルスと心理社会的支援のミニマム・サービス・パッケージを開発。

エビデンスに基づいた変化理論 (ToC) の開発に関する技術ガイド

どのような健康政策やプログラムが、有意義で測定可能な結果をもたらすことができるのかについて、証拠に基づいた変化理論 (ToC) の開発に関するWHOの新実用的技術ガイドを発表。

執行理事会、WHO 評価方針の改訂 (2025 年) を承認

WHOの執行理事会は、第157回会合で、機関全体の説明責任、透明性、組織学習、エビデンスに基づく意思決定、パフォーマンスの強化を目的とした、先の2018年版を更新する改訂版「機関全体の評価方針 (2025 年版)」を承認。

体罰が子どもの健康に害を及ぼすことを示す新たな報告書

WHOの新しい報告書では、体罰が依然として驚くほど蔓延しており、『子どもの体罰：公衆衛生への影響』と題されたこの報告書は、体罰を受けるリスクが最も高い子どもは、障害のある子ども、親自身が体罰を受けた経験のある子ども、親が薬物使用やうつ病などのメンタルヘ

ルス状態に苦しんでいる子どもであると結論。WHOは、積極的に非暴力的なしつけの方法を促進するためには、法的措置と同時に、一般市民の意識向上キャンペーンや、親、養育者、教師に対する直接的な支援が必要であると強調。

WHO と WMO：労働者の熱ストレス増加を防ぐための新たな報告書とガイドラインを発表

世界保健機関 (WHO) と世界気象機関 (WMO) は、猛暑が労働者にもたらすグローバルヘルス上の課題の増大に焦点を当てた新しい共同報告書とガイダンスを発表。世界中の労働者に対する熱中症の影響の悪化に対処するために、早急な対策が必要であることを明確に示した。

ガザ地区で初めて飢饉を確認

新しい総合的食料安全保障レベル分類 (IPC: Integrated Food Security Phase Classification) によると、ガザでは50万人以上が飢饉に陥っており、飢餓、貧困、予防可能な死が蔓延し、9月末までに、ガザ地区全域で64万人以上が壊滅的なレベルの食糧不足 (IPC フェーズ5に分類) に直面。

8月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。

<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・看護と助産 ・子どもへの体罰と健康 ・デング熱 ・砂糖と虫歯 ・乳がん ・鎌状赤血球症 ・心血管疾患 (CVDs)

9月
Septmeber

世界の4人に1人が依然として安全な飲料水にアクセスできず

WHO と UNICEF が発表した『家庭用飲料水と衛生状況の進展 (2000 ～ 2024 年) : 不平等に焦点を当てて』は、一定の進展は見られるものの、大きな格差が依然として存在することを明らかに。

医療製品に関するアラート：規格外 (汚染) フェンタニル HLB

WHO は、アルゼンチンにおいて、注射剤フェンタニル HLB の汚染ロットに関連薬剤耐性菌が関与した致死的な細菌感染のアウトブレイクの報告を確認。

WHO、必須医薬品リストを更新 がんや糖尿病の主要治療薬を追加

WHO は、必須医薬品モデルリストおよび小児用必須医薬品モデルリストの更新版を発表。がん免疫療法薬の一種である PD-1 / PD-L1 や糖尿病治療薬 GLP-1 など新たに 20 品目を EML に、15 品目を EMLc に追加。

母子保健のための世界的なガイドラインと地域活動の連携

WHO と国連 HRP (リプロダクティブ・ヘルス) 研究特別プログラムでは、グローバル・ガイダンスを各国の状況

に適応させるための支援ツールを開発。

WHO: 「メンタルヘルスにおける緊急のギャップを浮き彫りにする」

WHO は、「メンタルヘルス・アトラス 2024」と「世界メンタルヘルス・トゥデイ」という 2 つの主要な報告書を、自殺推計の更新とともに発表。

コレラ死者数が2年連続で増加

世界保健機関 (WHO) が発表した 2024 年の世界コレラ統計によると、2024 年に報告されたコレラ患者数は 2023 年と比較して 5 % 増加、死亡者数は 50 % 増加。

WHO、HIV サービス提供に関する最新ガイドラインを発表

WHO は、統合的な HIV サービスの提供を支援し、抗レトロウイルス療法 (ART) の長期的なアドヒアランスを促進し、HIV とともに生きる人々の全体的な健康とウェルビーイングを改善するための最新のガイドラインを発表。

WHO、タバコの使用は子供の発育障害につながると警告

WHO は、タバコの使用が子どもの発育障害に及ぼす有害な影響について強調する新たな文書を発表。

エボラワクチン接種開始：コンゴ民主共和国

エボラ出血熱の発生が宣言されたコンゴ民主共和国カサイ州ブラペ保健区域において、最前線の医療従事者と感染者との接触者へのワクチン接種が開始された。

がんの研究開発状況：1999 ～ 2022 年の概要

本レポートでは、2023 年における世界のがん臨床試験の状況を分析し、キーメッセージとして『地理的格差、疾病負担との不整合、グローバルな協力体制の欠如、小児患者の組み入れの制限、医薬品介入への不均衡および試験結果の過少報告』を挙げている。

国際保健規則 (IHR) 改正が発効

2024 年第 77 回 世界保健総会において WHO 加盟国の総意により改正が採択された国際保健規則 (IHR) の改正が 9 月 19 日に発効。

WHO、規制医薬品への安全かつ公平なアクセスを確保できるよう完全なガイドラインを発表

必須規制医薬品への安全で公平かつ安価なアクセスを各国が確保できるよう支援することを目的とし、初の包括的なグローバル・フレームワークとなる、各

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものなので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



国の規制薬物政策のバランスに関するガイドラインの完全版を発表。

メンタルヘルスに関する費用対効果の高い解決策を要請

NCDs はグローバルヘルスにおける死亡原因の大半を占めており、10 億人以上の人々がメンタルヘルス不調を抱えながら生活し、NCDs とメンタルヘルスに関連する死亡の 75 % 近くが中低所得国で発生し、毎年 3,200 万人の命が失われている。世界保健機関 (WHO) は、「Saving lives, spending less (命を救い、支出を減らす)」と題する新たな報告書を発表。

安全な小児・新生児医療への世界的投資を要請

WHO は、2025 年の世界患者安全の日に「最初から患者安全を！ (仮訳)」というスローガンのもと、子どもたちを安全でない医療から守るための緊急の世界的行動を呼びかけ。

日本における風疹の排除が確認され、太平洋島嶼国・地域における麻疹と風疹の排除を確認

WHO は、WHO 西太平洋地域で、麻疹と風疹の排除を達成したと発表し、加えて日本も麻疹の排除に続き風疹の排除を達成。

WHO 伝統医学グローバル・ライブラリー、2025 年開設へ

WHO は、伝統医学、補完医療、統合医療に関する世界で最も包括的なデジタル知識リポジトリの立ち上げ準備を進め、伝統医学グローバル・ライブラリー (TMGL) が近々公表される予定。

「依然として数十億人が医療施設で基本的なサービスを受けられず」：WHO/UNICEF

『質の高いケアのための必須サービス：医療施設における水、トイレ、衛生設備、医療廃棄物および電力サービス』に関する合同世界進捗報告書によると、依然として数十億人が基本的な設備が整った施設でのサービスを受けられていない。

自閉症関連問題に関する WHO の声明

WHO は一部で拡散している「自閉症と妊娠中のアセトアミノフェン (パラセタモールとしても知られる) の使用との関連性」について、現在のところ、関連性を確認する決定的な科学的証拠はないと強調。

高血圧をコントロールしないと 10 億人以上が危険にさらされる

WHO は、第 2 回世界高血圧報告書を発表し、WHO が推奨するすべての高血圧治療薬が薬局やプライマリ・ケア施設

設で一般的に入手可能であると報告している低所得国はわずか 28% に過ぎないことを明らかに。

ワクチン誤情報との闘い：WHO 予防接種・ワクチン・生物製剤部長 Kate O'Brien のメッセージ (要約)

私たちは今、重大な岐路に立っている。ワクチンは過去 50 年間で 1 億 5 千万人以上の命を救ってきたと結論づけられているが、今後数十年にわたるワクチン戦略は、誤った情報という別のタイプの伝染病 (contagion) によってますます脅かされている。

世界の指導者が非感染性疾患とメンタルヘルスに関する政治宣言に強い支持を表明

非感染性疾患とメンタルヘルスに関する第 4 回国連総会ハイレベル会合で各国首脳および保健相は、『国際連合世界政治宣言』の文面に対し、圧倒的な支持を表明。

WHO のダッシュボード更新、薬剤耐性と抗菌薬使用量に関する新たな知見を提供

『世界薬剤耐性・抗菌薬使用サーベイランスシステム (GLASS)』ダッシュボードの強化版を発表。世界的な AMR と AMU のデータが含まれ、国別データも示している。

9月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・高血圧 ・非感染性疾患 ・メンタルヘルス ・自閉症 ・淋病 (淋菌感染症) ・多剤耐性淋菌感染症
- ・性感染症 (STI) ・不安症 ・双極性障害 ・思春期のメンタルヘルス ・難民と移民のメンタルヘルス
- ・うつ病性障害 (うつ病) ・オピオイドの過剰摂取